

市民の思いかなえる市政に

日本共産党市議団の一般質問

来年度、介護保険見直し

介護保険料の引き下げを

約19億円の基金取り崩しと所得の多い人への保険料を引き上げることで低所得者の保険料を抑えるようにとこれまで何度か質問してきました。

14億円の取り崩しと所得段階の頭打ちを50万円から60万円に引き上げたことで、平成24～26年の保険料は、基準額一ヶ月4100円を4390円にするという提案されています。

児童館機能を残して

太陽の城跡地に新文化会館を

岡崎市は、太陽の城跡地8700㎡をすべて民間に売り払い、ホテルを誘致する計画です。答弁によれば岡崎市の客室需給は1400室だが、現在250室不足しているとのこと。この周辺ですでに2件の民間ホテルが撤退しているというのに、理解できません。児童福祉法で守ら

特養・ショートステイの増床
入所施設は今後3年間で5ヶ所・145床増やしますが千七百名以上の希望者にはまだ不足。
国は、要支援者のサービスを介護保険からはずすことや要介護1・2の特別養護老人ホームの入所者に退所を要求するなど検討していますが、岡崎市は影響を受ける人たちの把握すらしていません。

れ、親子連れが楽しく集う児童館と、音が漏れることを気にすることなく練習できる文化・音楽施設を潰して民間ホテルに売り払うなど言語同断です。
新文化会館の候補地として太陽の城跡地も含めなおした検討をし、児童館を残すべきと要求しました。

危険老朽空き家対策

全国的の空き家率は13%と言われています。防犯・防災上からも現状を把握し、住宅の適正管理のための条例をつくり、持ち主のいない危険家屋の解決策として行政処分や撤去費用の助成制度を作るための検討委員会を全庁的につくるべきと質問しました。調査し検討していくと答

自転車に安全な道路整備

道路交通法の改正で、子どもと高齢者障害者以外は、自転車は原則車道を走ることになりました。車道も歩道も自転車は走るには、危険な箇所がいっぱいです。歩道をセミフラット式(高さ5cm程度)にして車道との段差を少なくし、バリアフリー化と安全な道路整備を求めました。

市議会議員

きたまた昭子



昨年は東日本をはじめ日本にとって大変な年でした。国の社会保障と税の一体改革は市民にも市政にも負担が増えます。新しい年にむけて引き続き市民のくらしや福祉を守るために頑張ります。



市議会議員

鈴木まさ子

今年はいよいよ4年ごとのチャレンジの年です。原発を学んできた者としてわき上がっている原発反対や放射能への不安から広がる力強い国民の底力を感じながらそれに応える国政、地方政治のために今年もがんばります。

新年のご挨拶



衆議院議員
佐々木憲昭

野田内閣は、震災復興を口実に庶民増税をねらう一方で大企業

減税を企んでいます。TPPへの参加、普天間基地の辺野古移設強行、消費税増税など、アメリカ財界「使い走り」内閣の悪政と正面から対決できるのは、日本共産党だけ。皆さんとご一緒に、雇用と福祉、平和のために引き続き奮闘するために引き続き奮闘する決意です。



衆議院
かわえ 明美

国民の願いからかけ離れた政治を変えたいと願う国民のみなさんの思いはいつそ

う募っています。幅広いみなさんと共同してくらしや雇用を守り、消費税増税を許さないたたかいを広げ、世界一危険な浜岡原発を廃炉に追い込むために東海の地域を元気づけたいかけめぐります。静岡・岐阜・三重のみなさんよろしくお願ひします。



参議院愛知選挙区
もとむら伸子

愛知の皆さんと一緒にポフンティアにいった宮城県且理町のイチゴ農家の方が

ら困難を乗り越えて「希望のイチゴ」が実ったよ、とうれしいニュースが飛び込んできました。被災者の皆さんの生活再建、浜岡原発の廃炉はじめ原発ゼロの日本を実現すること、格差と貧困をなくすことなど今年のがんばりが希望につながったと言えるよう全力をつくします。

前進

小中学校の 全普通教室に 扇風機設置



9月議会で1600筆の請願を提出しましたが、今議会で、教育長が「最上階に3年間かけて設置する予定を前倒しして来年度中に設置する。天井扇のない教室には、現在使っている壁

掛け式の扇風機をつけかえて全教室に扇風機を設置する」と答弁しました。
すべてを天井扇に
壁掛け式は一部しか風があたりません。日本共産党は、引き続き、全教室に天井扇の設置を求めます。

特養建て替え 低所得でも入れる愛厚ホーム存続

愛知県が昭和50年に建てた愛厚ホーム岡崎苑の建て替えにあたり、日本共産党は「6人部屋の解消は必要だが、ホテルコースではなく、国民年金や生活保護の方が入所できる施設を」と

要求してきました。
平成26年度完成予定で、100床中60床を4人部屋にし、低所得でも入所可能な施設が存続します。

放射線計測機を購入・設置

「子どもたちを放射線から守りたい」切実な保護者からの願いが通じ、保健所に食品の放射線測定器が設置されます。(来年2月ころ) 11月臨時議会で予算がつきました。

保健所は「設置したことを市民に周知しない」「安全基準以下のものは公表しない」としていますが、不安を取り除き風評被

害をなくすためにも多くの市民が利用し、公表することが必要です。国の高すぎる放射線安全基準も来年度引き下げる動きがあります。
さらなる
安全対策
が必要です。



NaIシンチレーション
参考写真

議員定数削減

その前に やるべきことがある

現在40の議員定数を36に削減するという条例案が、一部会派から議会運営委員会に提案されました。結果的には全会一致とならず、今後にもちこしとなりました。

グリーン車使用・海外視察の廃止

グリーン車の使用に固執する一部議員、海外視察はいったん中止になっていますが、完全に廃止された訳ではありません。
領収書の添付不要など、不透明な政務調査費の使い方をやめること、行政視察費の削減をすることなど、ムダを省くことです。

市民に開かれた議会改革

～伊賀市議会に学んで～

全国では多くの市議会が議会基本条例を作りながら、市民に開かれた議会が改革され始めています。
先進的な条例を作った伊賀市議会の議会報告会を見てきました。集まった市民の前で、議員たちが、議会で決まったことなどを報告し、住民からの質問に答えていました。一人一人の議員が、「市民の理解が得られる議決や審議」を目指していることがよくわかりました。日本共産党の議員だけではなく、多くの議員が、議決に対して自らの考えを主張していました。

岡崎市議会の議会基本条例では、日本共産党が提案した議会報告会や、市民参加の議会などが盛り込まれていないばかりか、質問制限などは相変わらず行われています。

定数を削減しても、結局市民の声に耳を傾けない議員たちでは、議会は変わりません。

「市民の目線」で反対した議案

桑谷山荘の廃止

25年3月に廃止と決めていた同施設を寒い間の暖房費を削減するとして再来年1月に繰り上げて廃止を提案。「残してほしい」と利用者の声。年間の宿泊・休憩合わせ2万6千人。リピーター率は70%。
年間8千万円の繰り入れや今後の施設改修に6億3000万円かかるものですが、バリアフリー化ができていない宿泊棟はともかくお風呂・レストラン・貸し室を改修して存続することを要求しました。

本多邸開館

東公園の一角に5億円で復元し来年7月開館予定。文化財価値の賛否や財政難を理由に市民生活に必要な費用は一律10%カットをしている中で当初から復元に反対の声がありました。
開館後、年間の維持管理費は3千万円です。文化財にこだわらず、広く市民が活用できる施設にと要望。



下水道事業を企業化

下水道は、750億円を超える債務(借金)があります。市民の暮らしに欠かせない安全管理、処

豊富小の自校給食廃止

校舎の改築にあわせて、給食室をなくし、東部給食センターから45分かけて配送する方法に変わります。コスト削減は人件費の850万円。地域の人が地域子ども達のために給食を作るといふ自校方式の良さをなくすことは残念です。

日本共産党岡崎市議団ニュース

2011年12月議会 40号

連絡先: 23-6397 (FAX 兼)

Eメール jcp-ro@m2.catvmics.ne.jp

ホームページ: <http://okazaki.jcpweb.net/>

ご意見ご要望をおよせください。